

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成30年度終了評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
406MHz帯を利用した次世代衛星のビーコン通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H26-H30	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の技術が盛り込まれたビーコン通信技術として、捜索救助に有用なデータをパッケージ化して効率的に送信する技術、及び、遭難の真偽を確認すること等が可能となる双方向ビーコン制御技術の採用を促すとともに、次期衛星である捜索救助用中軌道衛星(MEOSAR)のリターンリンクフォーマットに取り入れられるよう寄与文書を入力したことは評価できる。 ・送信技術をパッケージ化し順次送信する技術についての我が国提案の標準化は実現されたが、リターンリンクの活用に関する我が国提案の標準化は未達成だと理解した。 ・次世代衛星であるMEOSARに対応した第二世代ビーコンの規格制定過程において国際標準化作業に貢献するとともに我が国のビーコン通信技術の国際標準化活動を戦略的に実施する連絡調整事務である。これまでの実績を踏まえ、28会合に出席し6件の寄与文書を提出している。さらに、新たな技術や手法の提案、問題点の提起や解決策の提案をして、承認されており、国際標準化が進捗していると判断する。 	4.1